

2026年4月上旬

一粒書房 重版のお知らせ

日本文化・伝統・植物
ご担当者様

〒475-0837 愛知県半田市有楽町7-148-1
TEL:0569-21-2130
Mail: book@ichiryusha.com

花の文化立国日本 お花の歳時記

好評につき
4刷重版

四六判・並製本／224頁／定価：1306円(本体1187円+税)

永田晶彦[著]



日本の花の歴史は、当時の先進国であった唐から花に関する文化が流入したことで起こりました。はじまりこそは中国に大きく後れを取ったものの、日本では和歌をはじめ、数々の文学・芸術が育つにしたがって、花の文化も大きく成長し、江戸時代には日本の花文化レベルは世界最高水準にまで達しました。このことは日本国内で花の歴史を勉強されている方々はもとより、他先進国の花の研究者はよくご存じなのですが、残念なことに、日本国内の一般にはあまり周知されていないのが現実です。

せっかく世界最高峰の「花の文化」という文化資産を母国に有しておきながら、それを知らず、味わわずに日々を過ごしているのがいかにもったいないことかとの愁いを込め、日本にある伝統的な花の文化背景をその種類ごとに記してみました。

気軽にお読みいただけるよう極力専門的な表現は避け、会話を多くしましたが、多くの方が初めて目にされるだろう内容でできるだけ盛り込んでおります。

【著者紹介】永田晶彦 (ながた あきひこ)

昭和37年愛知県生まれ。昭和62年群馬大学工学部卒。愛知豊明花き流通協同組合理事長、公益社団法人園芸文化協会理事、とよあけ花マルシェプロジェクトリーダー。

日本最大の鉢花の流通拠点である愛知豊明花き地方卸売市場において、花の流通・施設管理をする一方、地元から海外まで、広く日本の花文化を啓蒙することに尽力する。

44歳から中国語をマスターし、特に中国との花の文化交流に深くかかわるとともに、古代から近世の日本と中国の歴史に記録された日本の花のルーツを調査している。

日本伝統の花から毎月1種、4年間で計48種類を取り上げ、その文化背景を文献に沿いながらも、わかりやすく、ユーモラスに解説

- 1年目 4月／【サクラ】桜 → 「桜」と「菊」日本の国花は？
- 1年目 5月／【カキツバタ】燕子花 → 「杜若」、「燕子花」正しいのはどっち？
- 1年目12月／【サザンカ】山茶花 → 「山茶花」は「サンザカ」ではなく「サザンカ」？
- 3年目11月／【古典ギク】古典菊 → 私たちが知ってる菊は実は舶来品。日本伝統の菊とは？
- 4年目 4月／【ヤマブキ】山吹 → 太田道灌は花がきっかけで、歌道を志しました。……等

ご注文申込書	貴店名・帖合	注文数	発行：一粒書房 TEL.0569-21-2130
			永田晶彦[著]
			花の文化立国日本 お花の歳時記
		冊	四六判・並製本／224頁 定価：1306円(本体1187円+税)
			ISBN978-4-86431-924-9 C1320 ¥1187E

ご注文は JRCへ → FAX.03-3294-2177 ※返品条件付き注文扱い